

「災害を我がこと」に。次世代防災セミナー参加!

9月5日、JICA 関西で開催された、兵庫県危機管理部防災支援課主催の「次世代の行動宣言を踏まえた防災減災セミナー」に本校の防災・減災班の生徒3名が参加しました。兵庫県知事・齋藤元彦氏の開会挨拶に続き、兵庫県立大学教授・木村玲欧氏による基調講演、防災教育学会会長・諏訪清二氏によるワークショップが行われました。今回のセミナーでは、昨年度採択された「次世代（自分たち）の行動宣言」で示された① 次の世代に残す ② より安全なまちをつくる ③ 自分事として想像力を育てる ④ 防災教育を充実させる ⑤ 被災地との関わりを続けるという5つの行動宣言を、どのように具体的な行動につなげていくかを考えました。

参加者は9つの班（各班6名）に分かれ、それぞれの経験や考えをもとに「これから自分たちに何ができるのか」について議論し、ワールドカフェ形式でメンバーを入れ替えながら、各班で話し合った内容やアイデアを共有しました。参加したのは、兵庫県内の県立高校5校をはじめ、岩手県、宮城県、福島県、石川県の公立高校の生徒たちです。さらに、兵庫県立大学、関西国際大学、関西学院大学、長岡技術科学大学、熊本大学の大学生も参加し、世代や地域を越えた交流の場となりました。



特に印象に残ったのは、本校生徒3名の姿です。日頃の授業でワークショップや話し合いを重ねてきた成果もあり、他校の高校生はもちろん、大学生にも引けを取らず、自分の考えを積極的に発言していました。その姿を見て、日々の学びの積み重ねが確かな力になっていると感じ、頼もしく思いました。各班からは、様々な具体的な行動案が示され、最後に木村玲欧氏が各班の意見を総括され、特に二つの点を挙げられました。

一つ目は、「〇〇すべき」という言葉ではなく、「こんなふうにしたらいいいよ」という発想でまとめられていたこと。二つ目は、「いろいろな人とつながっていこう」という考えが強調されていたことです。このまとめを聞き、誰かに行動を求めるのではなく、自分ができるところを考え、それを周囲に広げていこうとする姿勢に、若い世代ならではの柔軟さを感じました。また防災・減災は、「一人だけ、あるいは一つの学校や地域だけ」で取り組むものではなく、高校生、大学生、地域、行政など、様々な立場の人がつながることの大切さを、改めて確認することができました。最後に諏訪清二氏から、「家に帰ったら、友人や家族に今日の話を伝えましょう。そして、今日話したことを具体的なアクションにつなげましょう」という趣旨のお話がありました。

「話し合って終わり」にするのではなく、学んだことを誰かに伝え、実際の行動につなげていくこと。それこそが「次世代（自分たち）の行動宣言」の大切な意味なのだと思います。今回、地域も世代も異なる多くの人たちと出会い、語り合った経験を、これから本校で取り組んでいる「探究応用」の活動にも生かし、さらに具体的な行動へとつなげてくれることを期待しています。今回も、地域の方や生徒たちからたくさんの学びの種を頂きました!